

やまたらけ

YAMADARAKE

APRIL

No. 16

2006

移住者の早川ライフ2

都会でサラリーマンをやっていた人が、果たして田舎で生活できるのか。近年は、団塊の世代だけでなく、若い世代の田舎暮らしも増えつつあるが、若い世代は仕事が出来れば生活できない。職場が限られている早川町への移住は、決して容易ではないはずである。

その答えを求めて、今回は30代の若い移住者に密着取材した。脱サラして、早川に仕事を求めて大阪から移住してきた澤村義之さん、律代さんご夫妻である。

移住して5年。現在澤村夫妻は早川町の雨畑で、「硯の里キャンプ場」の管理運営をしながら、今、早川町を大いに盛り上げているダンスサークル「早川酔茶晴（よっちゃやばれ組）」の中心的存在でもある。

お二人は、早川町に何を求めて来たのか。そして、今、何を思いどかな暮らしをしているのだろうか。そこから見えてきたものは、決して平坦な道ではないが、それでも地域に溶け込みながら、毎日、生き生きと暮らす二人の姿であった。





澤村さんの手作り看板。キャンプ場までの道中に、いくつもある。



愛犬サクラは秋田犬。実は、猫もたくさん飼っている。



薪ストーブの煙突。標高600mを超えるキャンプ場の冬は厳しい。



澤村さんお気に入りの一枚。その風貌は、まるで仙人のよう。

サラリーマンから「やまし」へ

東京生まれの澤村義之さんは、大学を卒業後9年間、サラリーマン生活をしてきた。仕事は三次元CADソフトの営業、発電所の配管施設の設計などに使われるソフトらしい。金額も相手にする会社も大きく、仕事そのものは充実していた。大阪の職場では、律代さんとの出会いもあった。ところが、ジープに乗ったことで全てが変わる。ジープ仲間には職人が多く、いつしかその世界に憧れていた。飲めば辛いと愚痴をこぼすサラリーマンとは違い、仲間の職人は明るく楽しく生き生きとしていたからだ。

義之さんは中学校から大学まで、バスケットボール部で主将を務めていた。ポジションは、ポイント(点を取る役)でありながら、ガード(ボールを運ぶ役)もこなす一人二役。

「バスケットはだーっと始まり、だーっとやっつて、だーっと終わるところがいい。今思えば、仕事でもそういうものを求めているのかもしれない。」

体力には自信があったこと、もともと自然や山が好きだったこと、それと職人との出会いが後押しになり、脱サラして「やまし」(山仕事をやる人の総称)になるという思いが決心に変わった。5年前のことである。

周囲はみな移住に賛成してくれたが、



山林作業中の沢村さん。チェーンソーで木を切り倒す。歯を食いしばり、歩くこともままならないような急斜面で作業し続ける。

ただ一人、30代になって知り合った親友が反対した。「サラリーマンをやっていたお前に、肉体労働など絶対に無理」と。やっつてやろうと思った。親友の忠告が逆に後押しに聞こえた。武田信玄と山梨県が好きだったという理由で、甲府で開かれていた林業の合同説明会に参加。そのとき出会ったのが、早川町の林業会社の社長だった。すっかり意気投合し、そのまま研修に参加した。転職までに時間はかからなかった。

「やまし」の仕事は、毎朝4時台に起きて6時には事務所に集合という過酷なものだった。仕事内容は、植林、下草刈り、除伐、間伐、枝打ちなど。「好きで始めた仕事だし、体力には自信があったから」。仕事そのものは充実していた。しかし、3年目に交通事故で怪我をし、過酷な林業の仕事はできなくなりました。

キャンプ場の生かす

そのとき早川を出ようとも思ったが、

思い直し地元の温泉宿泊施設「ヴィラ雨畑」に転職する。ちょうど施設を再編する時期で、その関連施設である「硯の里キャンプ場」が存続問題にさらされていた。澤村夫妻は、キャンプ場に住み込んで

で自らその管理運営を引き受けることを申し出た。「せうかくお盆をかけた作ったものだから、もっと多くのお客さんに来てもらうようにしないとダメだ」と。キャンプ場に住みはじめ、ちょうど一年が経った。

「硯の里キャンプ場」の営業期間は5月から10月。この間は、とにかくキャンプ場の仕事で忙しい。なにしろ夫婦ふたりで全てをやっているのだから。

「規模は小さいけれど、本当の自然を感じられるキャンプ場なので、ひとりでも多くの人にきてもらいたい。」

夫妻がキャンプ場の管理運営を引き受けてから、実際にお客さんはかなり増えた。ホームページを立ち上げたり、傷んだアスレチックを直したり、もてなしにも気を遣う。「小さい宿をやっている感じがな。お客さんに、一緒に飲みますか?と誘われることもしばしばだとか。」

お客さんと一緒に飲みながら、大自然のことを語るのも、お客さんとの距離を縮める上では重要だ。孫に「キャンプができるおじいちゃん」としてかっこいいところを見せようと遊びに来る孫子連れもいる。しかし、実際わからないことだらけで戸惑うおじいちゃんに、義之さんが影でこっそりアドバイスしたりもするそうだ。

飼っている秋田犬の「サクラ」は子どもに大人気。体は大きいのに、少々臆病なところが受けるのかもしれない。大自然を満喫し、感激して帰っていくお客さんの中には、手紙を置いていってくれる



アカマツに囲まれたキャンプ場のまん中には、芝生の広場がある。ここで地元若者の結婚式の二次会も開かれた。



キャンプ場には二人の笑い声がたえない。近所の若者が遊びに来た時は、火を炊いて鍋やバーベキューで盛り上がる。



澤村さん手作りの二丁差し。刃物がサヤにぴたっと納まるように作る。

人もいる。その手紙を読むときが、一番この仕事をしてよかったと感じる瞬間でもある。

■ オフシーズンの仕事

お客さんは増えたものの、半年間しか営業しないキャンプ場の収入だけで生計を立てるのは難しい。11月から4月までのオフシーズン、義之さんはキャンプ場以外のさまざまな仕事をする。以前やっていた林業のほかにも、発電所の取水口の点検や七面山の強力

(荷物運び)など、とにかく体力仕事ばかりだが、移住当時の仕事に比べればまだ楽な方だという。

「結局いろいろなことをしていないと食べていけない」。でも、体を使って働いた後のビールがうまさは、サラリーマン時代には味わえなかったという。

近所付き合いも良好で、毎年秋に行われる地域の運動会には夫婦そろって参加している。高齢化の進む早川町では、30代といえはダントツに若く、地域を引っ張る貴重な存在である。地元の住民からも慕われており、早川町を出ようとしたとき、澤村さん夫妻を引き留めたのも地元の青年だった。

消防団でも出合いがあった。2年に一度、消防団の労をねぎらって行われる団体旅行がある。そのとき、よくしてくれ



酔茶晴は、毎週2回、近所の体育館に集まり練習する。相当ハードな踊りだが、メンバーはとても気持ちよさそう。

たのが、地元の木工職人の依田さんだ。「依田さんとの出合いがなかったら、早川町に残っていなかったかもしれない」。そのときは二丁差しの話で盛り上がった。二丁差しは、やましにとっては宝みtainなもので、依田さんはそれを作ることができるからだ。作り方を習い、自分で作れるようになった。義之さん自身もともと木工や日曜大工が趣味であり、管理棟の増築まで自分でやっていた。これも、キャンプ場の仕事の醍醐味だという。

■ 酔茶晴組

今早川酔茶晴組というダンスサークルが、早川町を盛り上げている。実はこのサークル、澤村さんと地元の建設会社の社長である望月さん（リーダー）（組長）として、澤村さん達若い衆が立ちあげた。

地元の敬老会などをもっと盛り上げたいということがきっかけで、よさこいソーランを基本に激しい踊りを考案した。「よっちゃばれ」には、甲州弁の「集まれ」という意味と、「酔う」+「お茶」+「晴れる」という二つの意味がある。律代さんはもともとクラシックバレエをやっていたので、振付の考案と指導担当になった。エアロビやヒップホップの要素も取り入れ、オリジ

ナリティを高めていった。最初は数名で、地元の敬老会で披露した。すると、町内の文化祭でも披露してくれと、町長から依頼された。そこから、知り合いの男性を集めたり、回コミで広まったりして、地元の若者が次々にメンバーに加わった。今では高校生から小学校の先生、さらには子育て中のお母さんまで、総勢18人にもなる。

早川町の文化祭や山菜祭りでも披露すると、町外にも知名度が上がって、甲府の三味線を弾くグループがコラボレーションを持ちかけてきた。今ではオリジナルの曲「ダンスダンス武田節」を作ってもらい、信玄公祭りなど町外のイベントでも披露するようになった。毎週2回、夜に行われる練習にお邪魔してみる。かなり激しい動きが求められる踊りであるが、みな生き生きと練習に励み、過疎の町とは思えないほど盛り上がっている。その中心に、澤村さん夫妻がいる。

■ ふたりの生活に慣れて

大阪からの移住を決めたとき、唯一反対した親友は、移住してから頻りに澤村さんのところへ遊びに来るように言った。来るたびに、早川町と澤村さんの生活がうらやましくなり、ついにはこの親友も早川町への移住を決めたらしい。

少しずつではあるが、早川町への移住者は、毎年増えつつある。自分の生き方、考え方をしっかりもっていれば、早川町への移住も不可能ではない。(遊佐敏彦)

5 / 13-14

お茶摘みボランティアにご協力お願いします！
雨畑茶摘み体験と豆腐づくしの夕べ

静岡の隣だからか、山梨でもお茶の栽培は盛ん。早川町でもあちこちで茶畑を見かけますが、特に雨畑地区では盛んで、今でも各家庭で大切に飲まれています。

ただ茶畑の手入れや茶摘みは、大変な重労働。お年寄りが多い早川町では、手入れできずに放置された茶畑も目立ってきました。そこで、茶畑の維持とみなさんの楽しみをかねて、お茶摘み体験ツアーを企画しました。サポーターの皆様、ぜひ手伝いにお越してください。もちろん収穫していただいたお茶は、加工後みなさんにお届けします！



老平集落に広がる茶畑



日時 / 5月13日(土) 13時集合～翌14日(日) 12時頃解散
集合場所 / ヴィラ雨畑

内容 / 茶摘み体験、雨畑製茶工場の見学、
手作り豆腐づくしの料理

※摘んだお茶は製茶して、後日お送りいたします。

参加費 / 会員10,000円、非会員12,000円(一泊二食、体験料込み)

定員 / 30名(要申込、先着順、締切5月8日)

持ち物 / 作業しやすい格好、運動靴で(斜面での作業あり)

6 / 4

野鳥公園主催自然観察シリーズ⑥
憧れの夏鳥と白い花

緑が濃さを増すにつれて、山々には白い花が目立ちはじめます。暖かな陽気に誘われて、冬鳥たちが北の大地に帰ってから数週間、入れ替わるように南から夏鳥たちがやって来ます。

オオルリやキビタキなど、夏鳥は色や声の美しいものが多いのが特徴。白い花に包まれた野鳥公園で、あこがれの夏鳥を観察してみましょう。

日時 / 6月4日(日) 10時～13時頃

集合場所 / 野鳥公園駐車場

参加費 / 大人800円、小人500円 ※入園料込み

備考 / 歩きやすい格好でお越し下さい。双眼鏡をお持ちの方はご持参下さい。参加者には、町内のお食事処割引券を差し上げます。

定員 / 20名(要申込、締切5月29日)



こんなものが観察できそうです
夏鳥:オオルリ、キビタキ、ホトトギスなど / 植物:ウツギ、ノイバラ、ガマズミ、テイカカズラなど
(写真上:キビタキ、下:オオルリ)

～申込先～
南アルプス色野鳥公園
☎0556-48-2288

5 / 21

やまだらけツアー第13弾
新緑の七面山トレッキング

新緑の5月。一年で最も爽やかな季節です。古くから山岳信仰の拠点として知られていて、現在でも多くの参詣客が訪れる七面山では、この季節、ゴヨウツツジ、ミツバツツジ、ドウダンツツジなどが咲き乱れます。



敬慎院の住職からありがたいお話もお伺いし、心身ともにリフレッシュできるツアーです。

遠方からお越しの方は、前後泊をお勧めします。ご希望により、昼食、飲み物等をご用意することも可能です(別料金)。

日時 / 5月21日(日) 8時集合～17時頃解散

集合場所 / 角瀬トンネル横広場

内容 / 七面山登山、ゴヨウツツジやミツバツツジの群落見学、敬慎院の住職からお話を聞く

参加費 / 会員800円、非会員1,000円

定員 / 20名(要申込、先着順、締切5月12日)

持ち物 / 昼食、飲み物、雨具、登山できる格好で

備考 / 山頂まで、4時間程登ります。体力に自信のない方はご遠慮ください。



～申込先～
やまだらけ編集部
☎0556-45-2160

早川の旬直送便

春の恵み 本物の山の幸 山菜の詰め合わせ

編集部自ら
山へ分け入り
採って来ます！



コシアブラ

ワラビ

春の息吹もそこかしこに見られるようになり、今年も山菜のシーズンを迎えました。都会では味わえない、早川町の大自然の中でとれた、みずみずしく香り豊かな山菜です。この季節限定の春の味覚を、ぜひご賞味ください。

10箱限定！

内容/山菜一箱、約1kg
※タラノメ、コゴミ、コシアブラ、ウド、ワラビ、フキ、ゼンマイなどの中から、その時期にとれたものを3種類程度詰め合わせでお送りいたします。
金額/本体税込み2,000円、別途送料900円
発送/4月下旬から注文順に発送いたします。
入金/商品に請求書を同封いたしますので、指定の金融機関にお振込ください

ご注文
やまだらけ編集部
☎ 0556-45-2160

フィールドミュージアム山村文化体験ツアー 2006年度ラインナップが決まりました！

「もう少し早めにツアーの予定を教えてもらえたら、もっと参加できるのに。」というみなさんのご要望にお応えして、来年の3月までに開催するツアーを、どんどんと決めてしまいました！

これから一年、下の表の日程でツアーを開催していきますので、あらかじめ日程調整をお願いいたします。

なお、下記は、あくまでも予定です。この他にも、いくつかツアーを企画中です。より詳細なご案内と正式な参加者募集は、次号以降の「やまだらけ」に、順に行っていきますので、ご了承ください。



月	日	ツアー名	場所	定員	参加費(税込み)
6	11	来て！見て！聞いて！奈良田らけ～！	奈良田の里	30名	2,500円(昼食・温泉付)
7	9	早川水車でのそば挽きとそば打ち体験	そば処アルプス	20名	3,000円(昼食付)
9	9~10	幻のヤマトイワナを追え	ヴィラ雨畑	10名	16,000円(昼食・温泉付)
10	7	野鳥公園自然観察会～鳴く虫と秋の実りと渡り鳥～	野鳥公園	20名	800円(昼食割引券付)
	29	白鳳溪谷の紅葉と温泉ツアー	奈良田の里	20名	2,500円(温泉付)
11	4~5	ダイヤモンド富士ときのこづくし料理	ヘルシー美里	20名	12,000円(一泊二食付)
12	3	野鳥公園自然観察会～早川で冬を過ごす鳥たち～	野鳥公園	20名	800円(昼食割引券付)
2	4	野鳥公園自然観察会～厳冬の森を生きる～	野鳥公園	20名	800円(昼食割引券付)
	10~11	昔ながらの味噌仕込み会としし鍋料理	ヘルシー美里	30名	12,000円(一泊三食付)
	25	赤沢に春を告げる福寿草観察ツアー	赤沢宿	20名	1,800円(昼食付)

上記のツアーに関するご質問/お問い合わせは、やまだらけ編集部(☎0556-45-2160)まで

早川町で暮らそう!

●早川での生活は都会とは違いますか?

義之さん:確かにサラリーマン時代に比べれば年収は減ったけど、ストレスが全くないっていうのは、やっぱりいいよね。笑って暮らせるっていうのは大事だと思う。お酒を飲んでも嫌な話は出てこない。

ここでの生活は、いろいろなことを含めて、自分でやると決めたら貫き通すしかない。気合いと根性。これは学生時代のバスケで培われたものだけ。ただし、世間を知っていることも大事。皆さんとの協調性を大切にしながら、自分らしさを出していければいいね。田舎はよい部分も悪い部分も持っているから。

早川の人は熱しやすく冷めやすい傾向があるので、私たちの手で、一度火がついたものを、何とか持続させて、地域を盛り上げていきたいという思いがあったと思う。「酔茶晴」がまさにそれ。

●酔茶晴の今後の展開は?

律代さん:いろいろなイベントに参加したいですね。ただ、お金を稼ぐためにやっているわけではないので、「踊りたい」という気持ちをいつまでも持ち続けていきたいですね。賄いができればどんなイ

ベントにでも駆けつけますよ。

もう一つは、子どもたちにも広めていきたいですね。高校生が「楽しい」といって踊っている姿を見るのがうれしいです。小学校の先生がメンバーに入っている関係で、その先生の教え子達が、「私達も踊りたい」と言って来てくれたんです。現在は小学校でも教えています。メンバーの中にはお母さんもいますから、その子どもも影響されるようです。テーマ曲を口ずさんだり、踊る真似をしてみたり。次の世代が酔茶晴を続けてくれることが一番の願いですね。

●早川での楽しみは何ですか?

義之さん:愛犬のサクラと散歩をすることかな。この前、サクラと一緒に奥沢に行ったときのことだけど、奥の方まで走って行って、なかなか帰ってこなかったんだ。「どうしたんだ、何かあるのか? それなら案内しろ」といったら、ものすごい断崖絶壁に連れて行かれたよ。たぶん僕がそこを通れることを計算して案内してくれたんだろうね。さらに奥に行くと、猟師がさばいた後の鹿をくわえて持って来たんだ。びっくりしたよ。サクラにとっても早川の山は格好の遊び場だと思う。

実は、うちにはネコもたくさんいるんだよ。この家の中でも、いろんなところに隠れているから、突然扉を開けて出てきても驚かないように。

やっぱり動物はいいね。仕事で疲れて帰ってきて、癒されるから。夫婦そろって、犬好き、猫好きなんだよね。

●体力仕事の多い旦那さんに気を遣うことは

律代さん:弁当は毎朝作ります。出勤が早いので、それよりも早く起きて作るのは大変ですが、体を使う仕事なので、できるだけ体にいいものを食べて欲しいですね。なるべく冷凍食品も使わず、手作りの弁当を作ることを心がけています。

地元の素材を使ったりもしますよ。最近は、キャンプ場の周囲でフキノトウがとれますから、フキ味噌を作ったりしますね。

●地元の人々とうち解ける

秘訣はありますか?

律代さん:みんなが集まる場で、何かを思い切ってやることですね。私は地元の敬老会で氷川きよしや軍歌を歌ったら、それが大うけして、「あんたは芸人や」とか「今度一緒にカラオケ行こう」と今まで話したこともない人から言われ、びっくりしました。

「はい、ありがとうございます」と敬礼するとさらにうけて、すぐにみなさんと仲良くなりました。あまり気どらずに、ありのままの自分を出すことが大事なんですかね。



ゴールデンウィークは早川町で遊ぼう!

5/3 町最大のイベント「山菜祭り」 石臼挽き珈琲一杯サービス。酔茶晴も踊る!

5月3日、早川町最大のイベント「山菜祭り」が、早川中学校運動場にて開かれます。この祭りのメインは、山菜の直売。地元の山でとれた天然の山菜を各種取り揃えて、お待ちしております。

編集部ブースでは、会員証の提示が「やまだらけを見た」で、恒例の石臼挽きコーヒーを1杯サービスします!

そうそう、今回、特集した澤村さんたち「早川酔茶晴組」も踊りますよ。

4/29-5/7 早川町関係の作家さんも多数出品 クラフトパークで「和」展

早川町への入り口、身延町下山にある富士川ふるさと工芸館の「南アルプスの館」では、ゴールデンウィークに併せて「和」をテーマにした展示会が開かれます。

作品は、現在この館を運営する身延町在住の山内真咲さんの銀細工やウッドバーニング、さらに早川町からも久村真代さんの陶芸、浦邊さんご夫妻のステンドグラスなどが出品される予定です。

コーヒーや甘味が出される喫茶コーナーもあります。早川町への行帰りに、ぜひお立ち寄り下さい。

2/25 やまだらけツアー第12弾 赤沢宿に春を告げる福寿草観察会



前日から心配された天気も、明けてみれば快晴で、しかもポカポカ陽気とくれば、ツアーには絶好のコンディション。今回のツアーには、県内外から13名の参加者が集まりました。お昼前に集合し、いざ赤沢宿へ。まずは公民館で地元のガイドと顔合わせ。赤沢宿の歴史や、町並み保存の活動などについて、簡単に説明をいただきました。

そして、いよいよ今回の目的である福寿草の群落を目指して出発。といっても、赤沢集落のあちこちで福寿草が咲いています。黄色の花が目に入るたびに、参加者は大歓声、そしてうっとりとしたため息。

集落を歩きながら、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている集落の町並みも見学。歴史を感じる立派な旅籠に、みなさん驚かれた様子でした。

昼食はもちろん、赤沢のそば処「武蔵屋」さ

んで、ボリューム満点の食事の中に、フキノトウや春シイタケの天ぷらもついていて、こちらでも春を感じることができました。

大好評につき、すでに来年も開催が決定。今回見逃した方は、ぜひご参加下さい!

■NEXT やまだらけ

17号特集 (6月上旬お届け)

「早川の蕎麦、徹底解剖！」

「そば処アルプス」、「そば処武蔵屋」。早川町内には、手打ちそばを食べさせる店が、いくつもあります。今回の特集では、それぞれの店の特徴、こだわりを徹底分析します。また、併せて、早川町のそば文化もご紹介する予定です。次号を片手に、ぜひ新そばの季節の早川にお越し下さい!



今回の取材を通して、改めて田舎暮らしは楽しいことばかりではないことを実感しました。しかし、いろいろな苦労はありながらも、生き生きと暮らすおふたりの生活から、新しい早川スタイルを見ることができました。キャンプ場は素晴らしいところです。取材中頂いた、律代さんのおいしい料理も見逃せません。みなさん「隣の里キャンプ場」をぜひ訪れて下さい。http://www.saps.net/user/papajaejoe/

山を覗けば宝の山 やまだらけ

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町袋袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/